

家庭と幼稚園

幼稚園に入るべき幼児の年齢に就いて、いろいろの意見がありまして、其の結果、女子高等師範学校附属幼稚園では、今年試に四歳以上の児童を入れることになりました。文部省の規則では満三歳から入れることになつてゐるのですが、餘り早くから幼稚園へ出すといふことは、いろいろな點からよくないといふことで四歳以上の児童を、試みに保育することになつたのであります。私は幼稚園教育には直接経験がありませんので、さういふ細い點には別に申上げる意見も持ちませんが、たゞ私が現在の幼稚園教育に對して、常に抱いてゐる希望の一は、もう少し幼稚園といふものを家庭に接近せしめ度いと云ふことであります。つまり成るべく子供が家庭にゐる間の氣分を、その儘幼

東京女子師範學校教授 下 田 次 郎

幼稚園に行つても續けて持つてゐるやうにし度いと思ふのです。幼稚園を家庭とかけ離れたものにして、他所ゆきといふ感じを子供に與へてはならぬと思ふのであります。現在の幼稚園は幾らかこの憾みがありはせないかと思はれます。さうするに、児童の数が餘り多いといふことは面白からぬことで、大勢の間にあることは一種の愉快には相違ありませんが、餘り多くなると、家庭に於けるやうな心持ちが失はれて、刺戟を受ける度が多くなるのであります。經費や志望者の關係から、何處の幼稚園でも人数を多く入れてありますが、理想から云へば少い方がよいのです。

由來、幼稚園は家庭に比して、どうしても規則的、機械的になり易いので、大勢の者を一緒に取

扱ふには、矢張りさういふもので統一せないと都合が悪い爲めであります。これは一方から云へば規律とか共同とかいふやうな習慣をつけることにもなりますが、一方餘り早く幼児の自由を束縛して、其の自發性を十分に現すことが出来なくするといふ恐れもあるのです。又、澤山の子供が一齊に運動したり、唱歌を唱つたりするといふことも一方には大勢で勇んで楽しくするといふこともあるには相違ありませんが、また時には、餘り刺戟を與へるといふ弊も伴つて來ます。來賓の前へ立たせて、一緒に唱歌を唱はせるといふことも、時には餘りに強い刺戟にはなるまいかと思はれます、さういふ風にして、この頃の年齢としての子供に強過ぎると考へられるやうな事をして、子供の刺戟性を餘りに興奮せしむるといふことは、最も慎重ななければならぬ事柄の一つであらうと思ひます。大體に於いて、今日の幼稚園はさういふ弊がな

らうかと思はれます。元より幼稚園で直接保育の任に當つて居らるゝ人は、十分その邊の事に意を用ゐて居らるゝでせうが、家庭に於いて親として、家庭に於ける子供の日常生活のみを見てゐる目から、突然幼稚園に臨むと、どうも、さういふ感じが起るやうに思はれます。保育の任に當る人の頭には、さういふ事柄は十分判りきつてゐる事柄なのですが、實際の上には知らず／＼學校的になり、課業的にならしむる傾がありはせまいか、保育者自身は少しも意識せないので、當り前のこととして、少しの疑問も挾まない事柄であつても、家庭から突然幼稚園を見るとき、さういふ感じを父母に與へるやうな氣分がありはせまいかと思はれるのです。私の考へでは、もう一層幼稚園を家庭的にし、もう一層自由にして、家庭に遊んでゐると餘り違ひのないものにし度いと思ふのです。今日の實際

は自分等の希望してゐるものとは、其の違が餘程
大いやうに思ひます。この點は十分保育の任に當
る人が、父兄等の意見も聞き、又理論も考へ、經

験にも訴へて講究すべき一の大切な問題であらう
と思ひます。(談、文責在記者)

歐米初等教育近時の傾向(二)

(フレイベル會二月例會に於ける講演大要)

東京高等師範學校教授 棚橋源太郎

兒童の實驗的學習

前の作業教授に關聯した事柄で、子供の知識は
子供自らの實驗に依つて會得せしむるといふ教授
法が一般に行はれてゐます。つまり、總の事柄は
子供自らの手で實驗し、發明して、其の知識を得
て行くので、教師が注入的に教へ込むのではあり
ません。例へば植木の萌發といふことを知らしめ
やうとしますと、實際に子供に種を蒔かして見
て、温い室内と寒い室外とに又水氣のある皿と乾

いた皿とに、それで以て萌發には溫度や濕氣の必
要といふこと、根から先きに生へるといふやうな
ことを會得せしめ、それをノートにスケッチせし
めて置く。教師はたい次の時間にそれを土臺にし
て、教授を進めて其知識を擴充し系統立て應用の
方面を知らすといふだけに過ぎないので、根本
の要素は子供自らが發見するものであります。鉛
の比重を教へるにしても、子供自らに水の中で計
らしめ、其の結果を書き取らせ更に各生のを通算